

しんせつってむずかしい

静岡県 佐鳴台小学校 2年 川田 昂都

夏休みがはじまってすぐのことです。ぼくはおとうとと、きんじょのこうえんに虫とりに行きました。せみとりをしていると、しらない男の子がぼくに、

「あみをかして。」

とやってきました。ぼくはかしてあげないのはいじわるだと思って、かしてあげました。

しばらくおとうととあそんでいて、あみをかえてもらってまた虫とりをしようと思い、その子をさがすと、もういませんでした。とてもかなしい気もちになりました。かしてあげることがしんせつだと思ったのに。

おれたあみを持って、かなしくてかなしくてなきながらいえにかえりました。おかあさんにおこられるんじゃないかとしんぱいで、どうしていいかわからずに、だまっていたら、おとうとがペラペラとおかあさんに、こうえんでのことをはなしてしまいました。

おかあさんはいつも、「しらない子とあそんでトラブルになるとこまるから、なるべくあそばないように」といいます。ぼくは、ああ、こういうことなんだと思いました。

「どこのだれかしらないの？ごめんねはしてくれたの？」

おかあさんは、

「だからいったでしょ。」

と、ぼくをしかったです。

ぼくは、あみをかしてあげることがしんせつだと思ったのに、なんであみまでおられて、おまけにおこられなきやいけないんだと、くやしくなりました。

本とうのしんせつがなにか、ぼくはしりたいです。

ぼくが思うしんせつは、ケガをした人をたすけたり、電車でせきをゆずってあげたりすることだと思います。でも前に、ばあばに「すわっていいよ」とゆずったら、「ばあばは、そんな年よりじゃないよ」といわれてしまいました。

しんせつと思ってしたことが、じぶんがかなしい思いをしたり、あいてがいやな気もちになることは、本とうのしんせつではないのだと、おかあさんがおしえてくれました。

しんせつをしてあげたぼくも、してあげたあいても、あったかい気もちになるのがしんせつなんだって。しんせつってむずかしいなあと思いました。

あみのことをいわないでいったのに、おかあさんにつげ口したおとうとも、本とうはぼくのことを思ってくれてたのかも。あの子も、もしこんど会ったら、きちんとごめんねしてくれたらいいのにな。そしたら、ぼくのあの日のいやなできごとが「しんせつ」になるのになあ。